

宮城県における 気候変動への適応に 関する取組

令和2年2月21日

宮城県環境生活部環境政策課

高橋 央



地球温暖化対策に関する 事業の実施背景

- ・温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の進展
- ・気候変動による影響の顕在化
(農作物の品質低下, 気象災害の増加)
- ・震災からの復興・復興に伴う温室効果ガス排出量
の高止まり状況

⇒「**待ったなし**」の状況にあり、全庁を挙げて
地球温暖化対策に取り組む必要がある



地球温暖化対策関連事業の 全体像

I 推進体制の確保

(例: 推進員への支援、県民会議の運営)

II 認知度の向上

(例: 普及啓発イベント、気候変動適応推進事業)

III 取組の促進

(例: 省エネキャンペーン、ストップ温暖化賞)

⇒「**持続的な行動**」を促し、

脱炭素社会の構築を目指す

気候変動適応推進事業の狙い

- 「気候変動への適応」という考え方の認知度向上
- 「気候変動への適応」の重要性の理解促進
- 地域で適応策に取り組む人材の育成

⇒サイエンスカフェやシンポジウムといった取組を、
「**気候変動適応推進事業**」として業務委託により実施



取組① サイエンスカフェ

目的 気候変動影響の現状と取るべき適応策
に関する認知を深める

対象 一般、大学生など

内容 有識者からの講演
グループディスカッション

日時 ①令和元年9月20日(金)
②令和元年12月8日(日)

サイエンスカフェの様子



＜参加者の反応＞

- ・浸水予想地域の広さに衝撃を受けた
- ・適応策が考えにくい分野があった



取組② シンポジウム

目的 気候変動影響の現状と取るべき適応策
に関する気づきを掘り起こす

対象 一般、事業者、自治体職員など

内容 有識者からの講演
事例発表

日時 令和元年11月21日(木)

シンポジウムの様子



＜参加者の反応＞

- ・将来のことを考えると今何とかしないといけない
- ・「適応」についてもっと知る機会があってよい



取組③ ワークショップ

目的 気候変動への適応策を考え、自ら実践する人材の育成

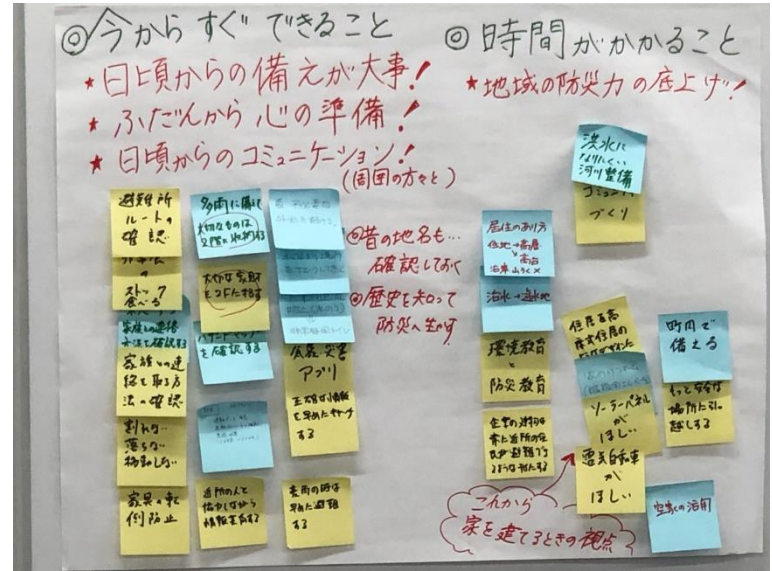
対象 一般、事業者、自治体職員など

内容 有識者からの講演
グループワーク

日時 ①令和2年1月18日(土)

②令和2年2月1日(土)

ワークショップの様子



<参加者の反応>

- ・多様な立場の人がいたことで、新しい考え方に触れることができた
- ・個人が実行できることをもっと教えてほしい



今後の課題

- 適応への興味・関心を捉えて理解や認知を広げるための仕掛けづくり
- 環境教育との連携など若い世代へのアプローチ
- 地域レベルでの気候変動影響予測
(例：沿岸部、内陸部、山間部)
- 地域の主産業における影響予測
(例：稲作、果樹、養殖水産物)
- 地域適応センターの確保など推進体制の構築